

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和元年度技術情報第2号（ダイズ・野菜類・花き類のハスモンヨトウ）について（送付）

ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺頭数が増加しており、被害の発生・増加が懸念されます。今後の発生に注意してください。

令和元年度技術情報第2号

- 農作物名** ダイズ, サツマイモ
野菜類（イチゴ, サトイモ, 根深ネギ, キャベツ, ソラマメ, サヤインゲン等）
花き類
- 病害虫名** ハスモンヨトウ
- 予報内容**
 - 発生地域 県本土, 熊毛地域
 - 発生量 やや多
- 予報の根拠**
 - 県農業開発総合センター（南さつま市金峰町）及び同大隅支場（鹿屋市串良町）のフェロモントラップでのハスモンヨトウは、誘殺数が平年より多い傾向にある（図1）。
 - 8月中旬に行った巡回調査でのハスモンヨトウ発生ほ場率は、ダイズで92%（平年74%）、サトイモで100%（平年82%）と平年よりやや高く、キクでは32%（平年12%）のほ場で被害が認められた。サトイモ等では発生程度の高いほ場も認められた（表1）。
 - 今後は秋冬作各品目の作付けが始まるとともに、ハスモンヨトウの増殖に好適な気象条件が見込まれることから、被害の増加が懸念される。
- 防除上注意すべき事項**
 - ハスモンヨトウ若齢幼虫は集団で表皮を残して食害し白変葉を生じるので、ほ場を見回り早期発見に努める。
 - 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに寄生葉を摘み取り処分する。
 - 施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置し成虫の侵入を防ぐ。なお、成虫はネット上などにも産卵し、ふ化幼虫がネットの目をくぐり抜けて施設内に侵入することがあるので注意する。
 - 老齢幼虫に対する薬剤の効果は低いので、若齢幼虫のうちに防除する。
 - 同一系統剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布に努める。

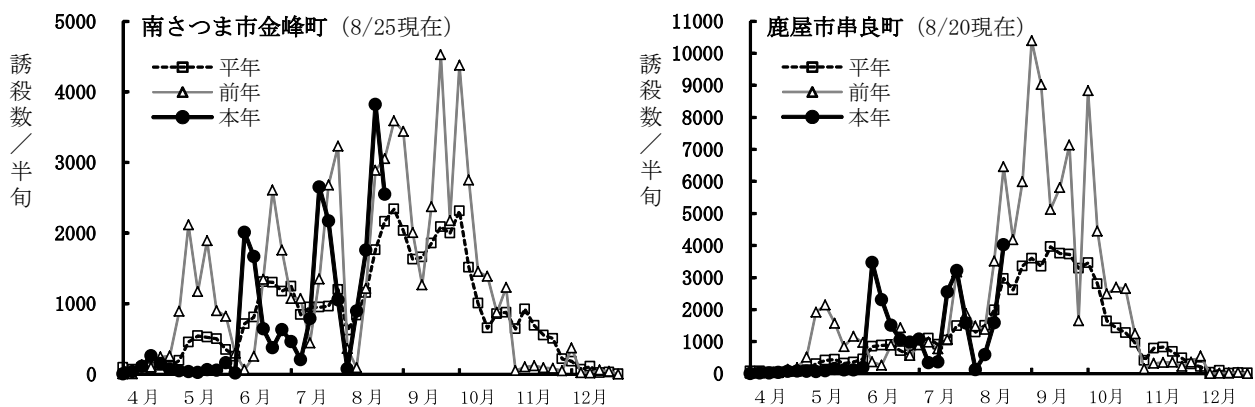


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況

表1 巡回調査 (8/16~23) におけるハスモンヨトウの発生状況

対象害虫/作物名	発生ほ場率 (%)			本年発生程度別ほ場率 (%)					概評
	本年	前年	平年	甚	多	中	少	無	
ダイズ	92	67	74	0	0	33	58	8	やや多
サツマイモ	4	9	6	0	0	2	2	97	並
イチゴ	21	40	18	0	0	0	21	79	並
サトイモ	100	90	82	0	33	33	33	0	やや多
キク*	32	6	12	0	0	5	26	69	多

* キクはチョウ目害虫の被害状況の調査 (被害はハスモンヨトウが主体)



図2 ハスモンヨトウ (左: 老齢幼虫, 右: 成虫)

黒褐色の斑紋 (矢印) がハスモンヨトウにはあるが、ヨトウガ, シロイチモジヨトウにはない。